



故田中昌人・杉恵両氏の 発達研究・発達保障論関係業 績・資料保存プロジェクト にご協力を



田中昌人氏略歴

- 京都大学名誉教授
人間発達研究所所長
(元)
大学評価学会共同代表
(元)
- 1954(昭和29)年 京都大学
教育学部教育心理学専
攻卒業。同年京都大学
教育学部助手
- 1956(昭和31)年 近江学園
に就職(この間近江学園
研究部に所属し精神発
達に関する研究チームを
組織)
- 1958(昭和33)年から大津
市の乳幼児健診相談活
動に参加
- 1967(昭和42)年全国障害
者問題研究会が結成さ
れ、その初代全国委員
長として活躍
- 1970(昭和45)年京都大学
教育学部助教授, 1983
(昭和58)年教授, 平成7
(1995)年停年退官, 名
誉教授。
- 1996(平成8)年龍谷大学文
学部教授。2003年まで同
大学教育開発センター・
センター長
- 1985(昭和60)年11月人間
発達研究所設立と同時
に初代所長
- 2005(平成17)年11月18日
逝去。享年73歳

プロジェクトの趣旨は

1961年に滋賀県にある近江学園で、「発達保障」という考え方が提起をされました。その後「発達保障」という考え方は、障害のある人たちにとどまらず教育や保育、福祉など人を支える営みの重要なよりどころの一つとして広がっていきましました。侵害され、奪われている発達を人間の手に取り戻し支えきろう、というよびかけを時代が求めていたといえます。同時に系統的な調査研究と深い思索による学問的な魅力も大きい力でした。そして、その成果を学問研究の場のみ封じ込めず広く普及する努力もなされてきました。田中昌人・杉恵夫妻は、その中心的な役割を亡くなるまで果たしてこられました。

ご自宅には、半世紀を超える発達保障の研究と運動の足取りが、段ボール箱で800箱の膨大な業績・資料として残されています。

人間発達研究所では、生前両氏とゆかりのあった方々ともご相談し、田中昌人・杉恵両氏の「発達研究・発達保障論関係業績・資料保存プロジェクト」をすすめてきました。そこからいくつかの成果も生まれています。しかし、なすべきことの大きさにくらべて、条件はまずしく、このたびみなさまに、田中昌人・杉恵両氏の発達研究・発達保障論関係業績・資料保存へのご協力をお願いする次第です。

プロジェクトではなにをしているの？

今取り組んでいるのは次の3つのアーカイブの作成です。

■田中昌人・杉恵両氏の発達研究・発達保障論関係業績の現物保存・目録・デジタルデータ化

■田中昌人・杉恵両氏の発達研究・発達保障論関連資料のデジタルデータによる保存

■田中昌人・杉恵両氏による映像資料の目録・デジタルデータ化

多くの人たち
に開かれた
アーカイブを
めざしていま
す

田中昌人氏の6つの領域での足跡

- ①発達研究を中心とした心理学領域の業績(初期の児童精神医学と最近接領域, 近江学園年報, 日本心理学会での乳幼児の行動発達, 応用心理学会での活動)
- ②教育指導など教育学関係(障害児教育, 近江学園年報, 全国障害者問題研究会などと関わりながらすすめてきた実践研究, 基準行財政制度, 義務制実施後の実態調査, 乳幼児健診, 到達度評価研究など, 学費問題と大学評価学会での活動)
- ③発達概念に関わる歴史研究, 日本における発達概念の展開過程の歴史的研究
- ④さまざまな人権と平和を守る社会運動(森永ヒ素ミルク中毒症事件とひかり協会の活動, 予防接種被害賠償請求, 滋賀九条の会など)
- ⑤発達研究の普及(人間発達研究所, 子ども総合研究所での講座など)
- ⑥実践記録映画『夜明け前の子どもたち』制作参加, その他テレビ番組の制作協力など

私たちの願い

論文として残された研究業績, 半世紀以上にわたって収集されてきた膨大な資料, 発達保障論の展開の各時期に重要な役割を果たした映像資料をまず保存したいと願っています. その際に, 最終的な成果物がまず重要であることは当然ですが, それと同じように業績の生成過程を重視し

次の世代に引き継ぐことがこのプロジェクトの重要な使命だと考えています. とりわけ発達保障論を支えてきた発達研究は, 真摯な方法論的な検討と工夫が背景にあります. 田中昌人・杉恵両氏の研究業績を引き継ぐ重要な意味は, その成果を始発点にしてさらに研究が発展していくことです.

知れば知るほど……

田中昌人氏の研究というと, 発達研究がまず思い浮かぶ方が多いのではないのでしょうか? あまり知られていないけれども重要で現実政治にも大きな影響を与えているのが, 晩年の高等教育の無償化についての研究と提言です. 2005年11月に発行された『日本の高学費をどうするか』(新日本出版)では, 詳細な実態の分析とともに, 国際人権規約A規約(1976年発効)に署名したにもかかわらず高校・大学教育の無償化(第13条2項b,c)について「留保」し続けている日本政府の姿勢の問題点を全

面的に解明しています. その後, 何度か国会でも取り上げられ, 2012年9月13日に日本政府は国連に留保撤回を通告しています.

日本の高学費がなによりも「青年・学生いじめ」にほかならず, 同時に排他的競争の激化に拍車をかけ, さらに大学教育のあり方にもゆがみをもたらしている実態の解決にむかって一歩踏み出すきっかけになりました. このようにして蒔かれた発達保障の種がいろいろなところで今も芽吹こうとしています.

いまどんな状況なの？

なすべきことは明確なのですが、時間と人手・資金が不足しています。

業績の目録づくりや資料のデジタル化(具体的には、論文、原稿、書籍、資料を画像ファイル化)では、ともかくこつこつと作業をすすめていくことが必要です。

田中昌人氏が生前に年代別に整理しておられた研究業績は書架で10本になり、点数で1,000点以上に上ると推定しています。これについては、閲覧可能にするためにも目録づくりが欠かせません。収集され自宅にあった書籍・資料は段ボール800箱

になります。現在、3,000点の書籍・資料が画像ファイル化されていますが、まだ一割にも満たない状況です。そしてこうした作業と保管には専用の場所が必要になり、家賃費用も継続的に必要です。

映像資料のデジタル化は、16mmフィルムの形で残されているものが多く、すでに閲覧するための映写機がなくなりつつあります。これをデジタル化(映像ファイルに変換する)には、多額の費用が必要です。また、長年の保存によってフィルムの状態が劣化したり汚損しているため、修復の費用も必要であることもわかってきました。



これまでにどんな成果があがっているの？

多くの方たちにもご協力いただきながら少しずつ成果も上がっています。

■田中昌人氏の1950年代から1960年代にかけての初期の論文が大泉溥氏の編集で出版されました。

大泉溥編『日本のこども研究——明治・大正・昭和——第13巻 田中昌人の発達過程研究と発達保障論の生成』クレス出版 2011-02

この本には80点近い論文が掲載されていると同時に、丁寧な年譜、さらに大泉氏による解説が併録されています。

■映像資料のデジタル化も進行中

奈良教育大学教授玉村公二彦氏が中心になって、『夜明け前の子どもたち』、大津市の障害児保育の始まり

を記録した『保育元年』三部作、『光の中に子どもたちがいる』三部作などの映像ファイル化が関係者の協力も得て完了しました。他に、オリジナルフィルムの所在が長年不明であったテレビ番組『一次元の子どもたち』のビデオテープを発見することができ、これも映像ファイルに変換しました。いくつかの作品については未使用フィルムの映像ファイル化も着手しており、その制作過程が具体的にたどれるようになりつつあります。

■戦前の貴重な文献も！

書籍・資料は約3000点が、田中昌人・杉恵両氏の業績については約400点が画像ファイル化されています。

時間と人手・
資金がまだまだ不足しています

人間発達研究所

〒520-0052
滋賀県大津市
朝日が丘
1-4-39

電話・Fax: 077-524-
9387

電子メール:
j-ih63su@j-ihd.com

寄付のお申し出・お問い合わせはお手数ですが人間発達研究所まで

ホームページもご覧ください j-ihd.com

まずはご覧ください 見た！ 来た！ やった！

田中昌人氏が収集した資料・書籍の画像ファイル化は、頁ごとに内容を確認することから始まります。毎年、初夏、初秋の2回、毎年恒例の作業となっています。時には10人以上の参加でわいわいがやがや楽しく作業を進めています。作業の完了した映像の上映会や、学習会の企画もあります。

まずは実際に足を運んでいただいで、1時間でもご協力ください。開催情報は、人間発達研究所のホームページをご覧ください。

また、例えば田中昌人・杉恵両氏の業績などについて「こんな文献ないだろうか」というお問い合わせも大歓迎です。資料および画像ファイルの閲覧もできます。

さらに、毎月1回田中テキスト勉強会も有志でおこなっています。『障害のある人と創る人間教育』（大月書店 2003年）をはじめ代表的な著作を読み込むことを軸にすすめています。こちらも、是非ご参加ください。



ご寄付のお願い 一口1万円 できれば三口！

保管場所の確保に現状で年60万円程度、映像フィルムの修復のような専門的な作業ではフィルム1本あたり10万円程度の費用がかかります。こうした作業をささえるために、発達研究・発達保障論関係業績・資料保存プロジェクトのための基金を創設するためのご寄付をみなさんに訴えます。

一口1万円とさせていただき、2013年10月末までに300口を募ることを目標としています。

ご寄付いただいた年度末に作業の進行や用途のご報告のニュース・レターをお送りいたします。

なお、3口以上ご寄付いただいた方に、制作者の大野松男氏のご協力により『光の中に子どもたちがいる』三部作の映像ファイル・上映当時の解説書、シナリオなどをお渡しいたします（非売品）。

このご寄付にあたっては税法上の寄付控除は受けられません。ご了承ください。

